周年放牧による三島及び十島産子牛の肥育成績と差益の関係

内　村　利　美

目　的

演者らは三島及び十島での周年放牧生産子牛の発育値や価格は，年次や季節の影響を大きく受けることを西日本畜産学会で報告した。今回は周年放牧で生産された子牛を肥育した場合の肥育成績と差益との関係並びに近年の差益の低下要因を明らかにしようとした。

方　法

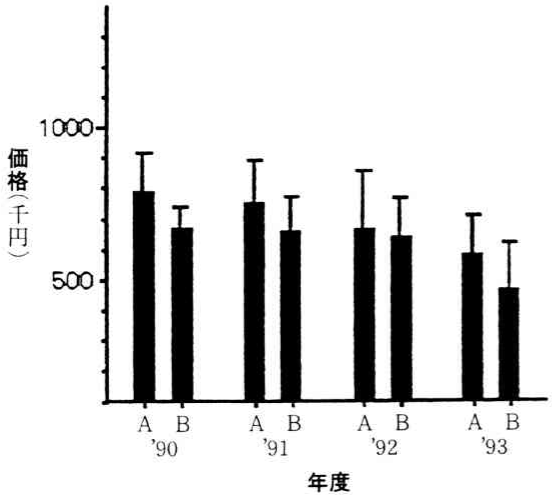
三島及び十島産の周年放牧下で生産された子牛は島伝いに集荷され，鹿児島中央家畜市場へ集荷されている。ＪＡさつま日置農協ではこれらの子牛を落札し肥育センターで肥育し，産地処理場へ枝肉出荷するネットワーク生産がなされている。また，枝肉相場が下落した時点では一部は生体出荷も試みられている。本調査は1988年11月から1991年７月の間に購入され，1990年10月から1993年４月までの間に枝肉出荷された去勢肥育牛125頭および雌肥育牛132頭の肥育月数，売上げ体重，Dily-gain (DG), Beefmarbling score (BMS), 肥育牛価格および差益｛肥育価格－（素牛価格＋濃厚飼料費)｝を調査し，相互の関係を検討した。また，差益性が大きく低下した雌牛について同時期に枝肉（27頭）と生体（10頭）で出荷された肥育牛の価格を比較し，出荷方法の有利性の違いについても検討した。

結　果

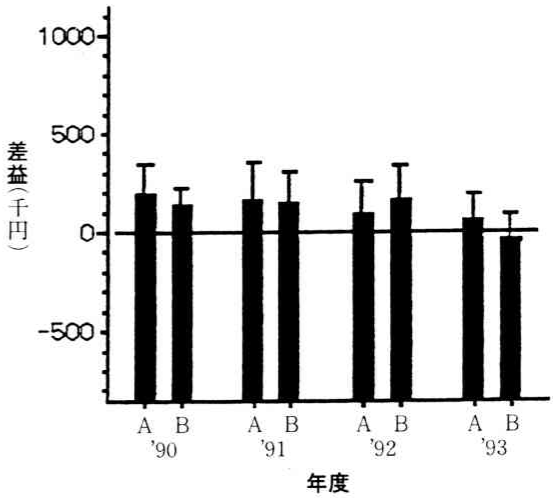
肥育牛の価格は1992年から急速に低下し，特に1993年には雌牛の差益はマイナスとなった。周年放牧生産の肥育牛の差益に影響する肥育成績の主な指標は，仕上げ体重，ＤＧおよびＢＭＳであった。仕上げ体重は去勢牛で660kg，雌牛で600kg程度以上のものが差益が高い傾向を示した。しかし，体重が過大なものは去勢雌とも差益が低い個体が認められた。ＤＧは去勢で680ｇ，雌で620ｇ程度以上のものが差益が高い傾向を示した。ＤＧが高すぎるものは体重と同様に差益が低い個体が認められた。ＢＭＳは去勢雌とも５以上のものが差益が高く，４以下では差益がマイナスになる個体が多く認められた。

特に，1993年の雌牛の差益低下が顕著となった主な原因は，ＢＭＳ３および４の単価が1993年に大幅に低下したためであった。

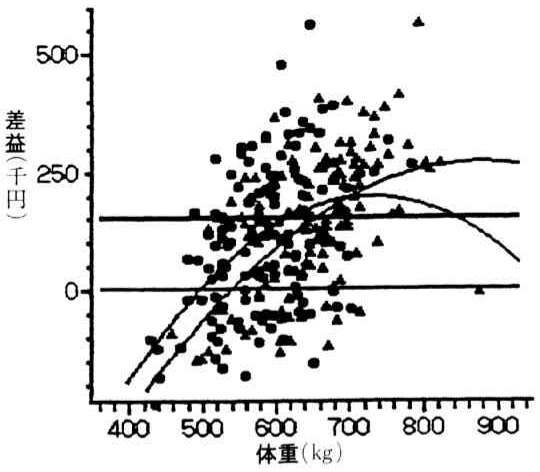
同一出荷時期における雌牛の枝肉と生体出荷間の比較では，価格が暴落した1993年において生体出荷価格が有意に高い値を示した。



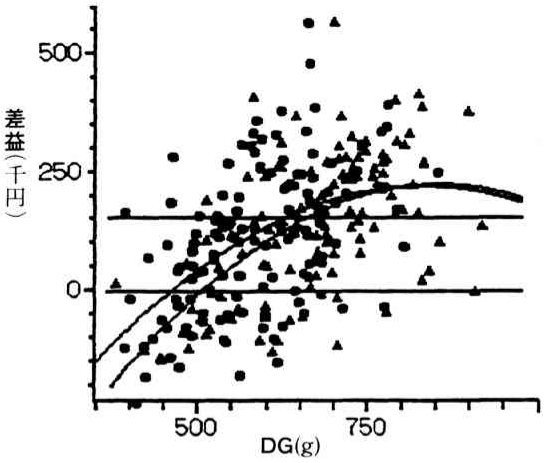
第１図　周年放牧生産子牛の肥育仕上げ価格.
A：□去勢　B：□雌



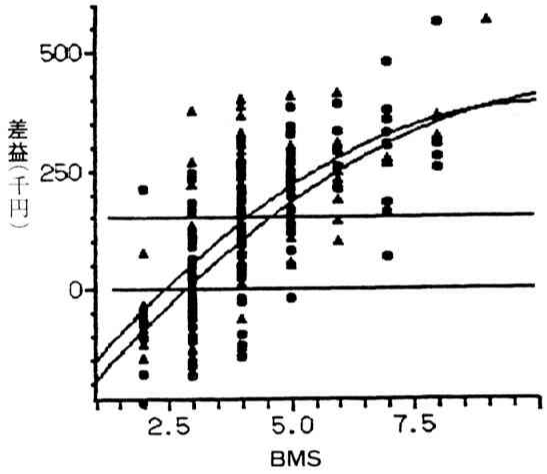
第２図　周年放牧生産子牛の肥育牛差益額.
A：□去勢　B：□雌



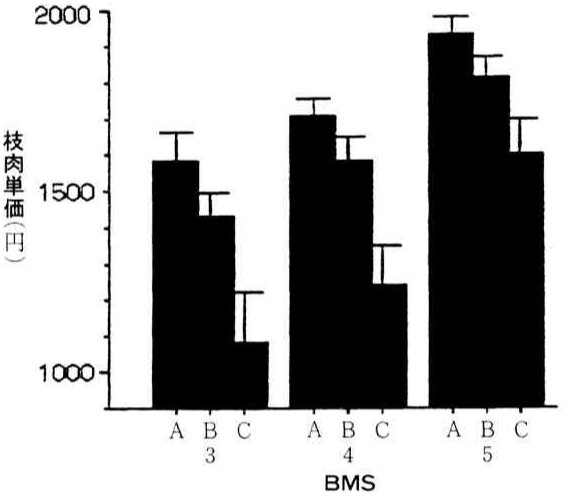
第３図　周年放牧生産牛の肥育仕上げ体重と差益との関係.
▲ 去勢　● 雌



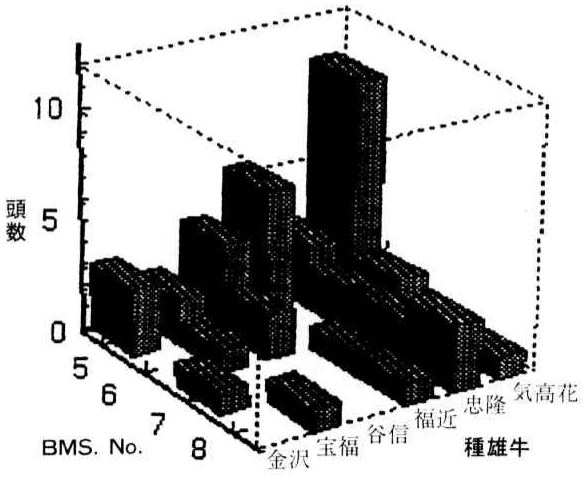
第４図　周年放牧生産牛の肥育期ＤＧと差益との関係.
▲ 去勢　● 雌



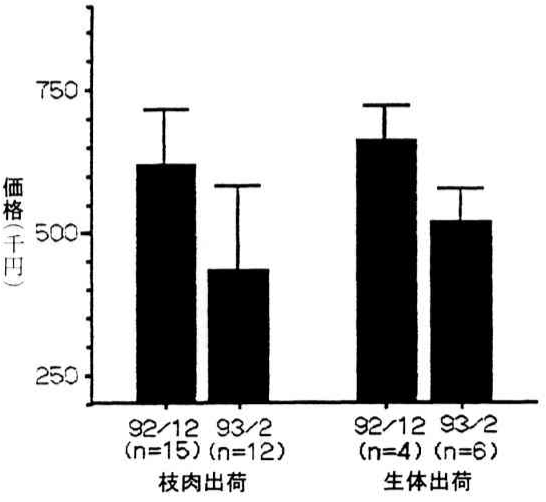
第５図　周年放牧生産肥育牛のＢＭＳと差益との関係.
▲ 去勢　● 雌



第６図　出荷年度による枝肉単価の違い.
A：□91年度　B：□92年度　C：□93年度



第７図　牧牛・BMS. No.別の出現頭数.



第８図　周年放牧生産子牛肥育牛の出荷方法による価格の違い.